

裁判

シリーズ～神の知恵～

2019/8/11

友情 6/13～18

他者を知る 6/13~8/10

- 言葉 6/19~7/12
- ゴシップ 7/13~15
- 聴くこと 7/16~24
- 対立(人間関係) 7/25~8/10
 - 不和を避ける 7/25~8/1
 - 赦し、愛を育む 8/2~5
 - 困った時には(裁判) 8/6~10

友となる

真実を話す

自分が責任を負う

神の手に委ねる

仕返ししようと考えない

赦しの階段

紳士的な態度

忍耐強く対すれば隊長(リーダー)も誘いに応じる。

穏やかに語る舌は骨をも砕く。(25:15)

- **まず心から赦す**

- 「このように赦すと、悔りと軽蔑の気持ち(18:3)が和らいでいきます」

- **威圧的でなく流されることもなく**

- 「私たちの気質は、ストレートで大胆で負けず嫌いなタイプか、穏やかで静かで相手に合わせるタイプかのどちらかです」>あなたはどちら？

- **穏やかに忍耐強く語る**

- 「『穏やかに語る舌』は、強い反対意見を打ち負かす時、攻撃的な言葉よりもより有効的である」

争いを未然に防ぐ

争いの初めは水がもれるのに似ている、それゆえ、けんかの起らないうちにそれをやめよ。(17:14／口語訳)

- 一旦争いが始まると予想を超えて拡大する
 - 「水がもれる」は“ダムの穴”の意
 - 小さな穴でもやがてダム全体を破壊する！
- 争いは全面禁止か？
 - 「箴言は口論を全面的に禁止しているとみなしてはいけません。むしろこの警告は、口論は最後の手段とすべきであって、成り行きで巻き込まれるべきではない、と示唆しているのです」
 - 「自分の動機をよく吟味し、良い助言を受け、正義と愛の両面から考えて口論に至るべきです」

よく調べる

訴えごとを最初に出す人は正しく見えるが／相手方が登場すれば問いただされるだろう。(18:17)

- 簡単に裁かない！

- 「私たちは、誰かから話を聞くと、決して誤りや偏りが無いとは言えないのに、よく考えもせず結論を出してしまいやすいのです」

- しっかり調べないと後で恥をかく

- 「さらに詳しく調べるまでは物事の全体像をつかむことができないのだ、と心に留めておくこと」
- 「ある一つの出どころから聞いたニュースを鵜呑みにしてはならない」> **完全中立なニュースはない！**

慎重に進める

何事かを目にしても／性急に争いの場に引き出そうとするな。そのため友人に嘲られることになったら／将来どうするつもりか。(25:7-8)

- 裁判は慎重の上にも慎重に

- 「あることについてすべての事実を知って、完璧に解釈することなどできない。また、人間の動機は自分が思うほど純粹でもない。《教会におけるもめ事について》法律や地域に解決を求めることは、個人的な関係の義務から逃げることである。マタイ 18:15にある、キリストの決定的な命令を参照しなさい。」キドナー

マタイ18:15~17

兄弟があなたに対して罪を犯したなら、行って二人だけのところで忠告しなさい。言うことを聞き入れたら、兄弟を得たことになる。聞き入れなければ、ほかに一人か二人、一緒に連れて行きなさい。すべてのことが、二人または三人の証人の口によって確定されるようになるためである。それでも聞き入れなければ、教会に申し出なさい。教会の言うことも聞き入れないなら、その人を異邦人か徴税人と同様に見なさない(裁判に訴えなさい)。

マタイ18:15~17

兄弟があな
て二人だけの
聞き入れたら
れなければ、
て行きなさい
人の証人の口
めである。そ
申し出なさい
ら、その人を
さい(裁判に訴えなさい)。

釈迦の恥

宗論は
どちらら負けても

したなら、行っ
さい。言うことを
こなる。聞き入
、一緒に連れ
二人または三
るようになるた
ければ、教会に
聞き入れないな
同様に見なしな

教会に申し出る

くじはいさかいを鎮め／手ごわい者どうしも引き分ける。
(18:18)

- 聖書の決定方法

- くじ: 土地・攻撃・王の選び・使徒選び

- 選出: 教会の執事(使徒6章)

- 祈りと話し合い: エルサレム会議(使徒15章)

- 教会のリーダーたちに相談する

- 「クリスチャンのリーダーにあなたの抱えている案件を打ち明け、彼らの助言を受け入れてはどうでしょうか？」

祈り

主よ、教会が衰退している時、教会指導者を尊敬して従うようにという聖書的な呼びかけは、受け入れがたいものです。教会内に不正や悪習がはびこっています。しかし、人々が知恵ある道を選ぶ手助けの出来る指導者のいることはなんとすばらしいでしょう。そのような指導者を起こし、すべての教会に置いて下さい。アーメン。